

## もし命の危機に遭遇したら

人が命の危機にあるとき、1分経過するごとに救命率が約10%低下するといわれています。また、救急車要請から現場到着までの所要時間は、全国平均で約9分かかります。つまり、救急車が到着するまでの間に、その場に居合わせた人がどのような処置をするかで、生存率が大きく変わるということです。

処置の方法については、毎月消防署で普通救命講習会を実施しており、心肺蘇生法や止血方法などを教わるすることができます。

### 次回の普通救命講習会

日 4月16日(火) 13時30分から

所 消防防災訓練センター

内 心肺蘇生法やAEDの使用方法など、応急手当の説明と実技・止血・異物除去法の要領について

定 30人 申し込み順

申 詳 救急課 (PDFでダウンロード可) で配布の申込書を、3月26日(火)～4月9日(火)に直接または郵送(必着)、ファクス、Eメールで 〒053-0052 新開町2-12-7 救急課 ☎(84)5044 ✉(84)5046

✉ shobo-kyukyu@city.tomakomai.hokkaido.jp



### ♡ 心肺蘇生法とAEDの手順 ♡



1 肩をたいて呼び掛け、反応の確認をする。反応がなければ、大声で応援を呼ぶ。協力者へ119番通報とAEDの手配を依頼する。



2 普段どおりの呼吸の有無を確認する(10秒以内)。



3 胸や腹部の上がり下がりが確認できない、または分からない場合は胸骨圧迫を行う。胸の真ん中を約5cmの深さ、約100回/分のテンポで圧迫する。  
※人工呼吸ができる場合、胸骨圧迫と人工呼吸を30:2の割合で実施



4 AEDが到着したら、電源を入れる→音声ガイダンスに従い使用する→電極パッドを貼る→「ショックが必要」と指示があれば安全を確認し、ボタンを押す→ショック後は胸骨圧迫を再開



### ⇒ 「安心」へ向けた救急体制の強化 ←

本市で救急業務が開始された昭和37年以降、救急車の出動件数は年々増え続けていますが、それは同時に、数多くの命が救われてきた歴史であるとも言えます。24時間体制でいつでも駆け付ける救急車は、「安心」というまちの財産と言っても過言ではありません。

しかし、最近では救急車をタクシー代わりに利用するなど、緊急性の低い理由で要請するケースが増えています。その間に1分1秒の命の危機にさらされている人が、救急車を待っているかもしれません。119番通報するか迷ったときは、かかりつけの病院などに問い合わせたり、「Q助」を利用するなどしてみてください。

また、命の危機に遭遇した場合、皆さまの処置

によって生存率が大きく変わります。心肺蘇生の手順は通信指令員が指導しますので、救急車到着までの間、心肺蘇生の継続をお願いいたします。

今後、さらに進む高齢化などにより、救急車の出動件数は今まで以上に増加が見込まれるため、本市では平成31年4月1日から救急隊6隊の24時間運用を開始します。

これを契機に、より一層皆さまの尊い命をお守りするため、職員一丸となって任務に取り組んでまいりますので、救急車の適正利用や予防救急の取り組みと併せて、ご理解とご協力をお願いいたします。



わきざか きよたか  
消防長 脇坂 恭敬